

報道関係者各位

令和 8 年 10 月 29 日

江戸時代の絵図「河内名所図会」に描かれた建物の一部をはじめて確認！ 史跡通法寺跡における発掘調査の現地公開を開催

羽曳野市教育委員会では、史跡通法寺跡において、今後の整備基本計画策定に向けて必要な情報を収集することを目的として、本堂跡の発掘調査を実施しています。このたび、江戸時代に描かれた絵図「河内名所図会（かわちめいしょずえ）」に掲載された、本堂の縁石（えんせき）などを確認しました。

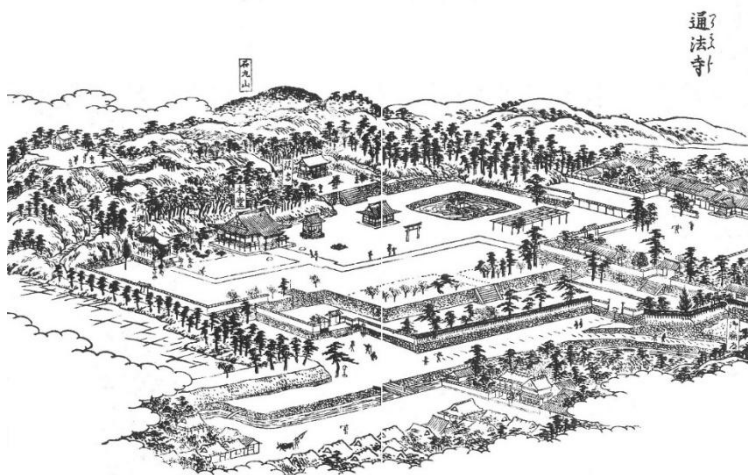
この成果について今回、報道各社の皆様及び一般の方に発掘調査の現地公開を行います。

発掘調査成果について

- 本堂跡の東西に設けた調査区より、「河内名所図会」に描かれた本堂の縁石及び縁先柱の礎石を確認しました。
- 縁石は、幅約 0.35m（約一尺）で調査区を南北に貫通する形で出土しました。
- 本堂基壇の盛土の様子や、礎石を据えた状況について確認しました。

今回の調査で、河内名所図会において「本堂」と描かれた建物にみえる、縁石と縁先柱の礎石が初めて確認できました。絵図に描かれた内容は、江戸時代当時の本堂の姿を忠実に描いているという事実により 1 歩近づきました。

今回の成果は、本堂の規模を推定できる指標となることから、今後の整備基本計画を策定するための貴重な資料となり得ます。



河内名所図会『通法寺』



河内名所図会『通法寺』 本堂跡

発掘調査の現地公開について

・日時:令和 8 年 11 月 3 日(火曜日、祝日)10時～15時(雨天中止)

・場所:史跡通法寺跡 発掘調査現場(羽曳野市通法寺 41-12)

近鉄南大阪線「喜志駅」で下車し、金剛ふれあいバス喜志循環線に乗車「太子四ツ辻」バス停から北に徒歩約 15 分(推奨ルート)

・その他:現地にお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

コインパーキングも含めて付近に駐車場はありません。自動車では来場しないでください。

当日は、希望者に向けて河内源氏ゆかりの遺跡を巡るウォークラリーを実施する予定です。

開催内容を変更する場合は、羽曳野市ウェブサイト等でお知らせします。

(中止の場合は、11 月 3 日午前 6 時までに羽曳野市公式 SNS 及びウェブサイトでお知らせします。)



ウェブサイト



Facebook



LINE



金剛ふれあいバス時刻表

【問合せ先】

羽曳野市教育委員会 生涯学習部 文化財・世界遺産室

【電話】072-958-1111 (内線:4400、4482)|

【電子メール】bunka-sekai@city.habikino.lg.jp



会場位置図

「河内名所図会」とは

現在の大阪府東部にあたる「河内国(かわちのくに)」に関する地誌や名所を紹介した江戸時代の書物です。享和元年(1801 年)に発行され、河内国の山川・地溝、名所旧跡・寺社・陵墓等について、絵図を添えてその様子や由来等を叙述したもので、現代のガイドブックにあたります。

河内名所図会によると、通法寺は本堂や鐘楼、放生池だけでなく、石丸神社や稲荷社を備えた大規模な寺院だったことをうかがい知ることができます。その中には、現在の通法寺跡の様子とは異なる記載や後世に失われてしまった施設も含まれていることから、今後の整備のため発掘調査などによって、その記載内容を裏付ける(実証する)ことが待たれています。

河内源氏ゆかりの史跡を巡るウォークラリーについて

出発・解散：史跡通法寺跡発掘調査 現地公開会場

立寄りスポット：壺井八幡宮、清泉壺井、源氏三代の墓など

参加方法：史跡通法寺跡の発掘調査現地公開の会場で整理券を受取ってください。整理券に記載された時間になりましたら、集合場所までお集まりください。所要時間は約 1 時間です。

「壺井八幡宮」「清泉壺井(壺井水の井戸)」

壺井八幡宮は、鎌倉幕府を興した源頼朝の祖「河内源氏(かわちげんじ)」の氏神であり、源頼義(よりよし)とその子義家(よしいえ)が前九年合戦(1057 年)を終えて東北地方から帰ってきた康平七年(1064 年)に、京都の石清水八幡宮のご神体を分祀して、香呂峰山上の社殿にお祀りしたのがはじまりとされています。

境内には樹齢 1000 年を超えるクスノキがそびえ立っています。また、参道のふもとにある井戸は、前九年合戦(1057 年)の際、源頼義が清水を壺に入れて持ち帰り、城域内に井戸を掘り井底に壺を埋めて壺井水と称したと言われています。井戸は、現在も完全に保存されており、近年まで飲料水として利用されていました。

11 月 3 日午前 10 時から、源頼義公にちなんだ祭典が斎行されます。一般の方も参列が可能です。

「源氏三代の墓」

源頼義と義家は、前九年の役や後三年合戦(1087 年)で活躍し、特に義家は八幡太郎(はちまんとろう)と呼ばれて東国に地盤を広げ、武家の棟梁としての地位を確立しました。鎌倉幕府を開いた源頼朝の先祖にもあたります。

88 歳でこの世を去った頼義は、遺言により河内源氏の菩提寺(ぼだいじ)である通法寺の観音堂の下に葬られたと伝えられています。

現在、通法寺境内の西端に頼義の墓があり、石垣に囲まれた基壇(きだん)が残っています。江戸時代の享和元年(1801 年)に書かれた「河内名所図会(かわちめいしよずえ)」には堂が描かれており、かつては墓堂(ぼどう)が建っていたことがわかります。また、頼信、義家は通法寺の南の山上に葬られたと伝えられ、今でも円形の塚が残っています。